

[似島学園高等養護部]



設計者 (有)宮森洋一郎建築設計室

建築施工者 河井建設工業株式会社

建築概要

建設地	広島市南区似島	用途	児童福祉施設
構造規模	RC造、一部S造 地上2階建	延面積	1,782.88㎡

[推薦概要]

この建築は広島港からフェリーで20分程の島の一角に計画された児童福祉施設である。この種の建物は、閉塞感が強く表出してしまっている場合が多く見られるのだが、今回の現地審査では、それをほとんど感じさせない生活環境体を生成していることが十分に理解できた。全体は2階建ての3棟で構成され、中庭を囲むコの字型となっており、前面道路側(海側)に大きく開いて風景を取り込んでいる。この部分に設計の妙がある。塀等を用いずに細長い水路状の池によって、外部と内部を区切り、またこの部分だけ屋根をガラスとし、より開放感や連続性を助長させるという手法には新鮮さが感じ取れる。

平面は機能的で安全に計画されており、ここで用いている建築材料の選択やディテール等も堅実で、確かさが感じられる快適な作品となって完成している。ここで生活をせざるを得ない子供達にとって、明るく楽しい理想的な施設となっており、建築文化賞(大賞)に相応しいと高く評価する。

(村上 徹)

優秀賞

[森×hako(もりはこ)]



設計者 UID 一級建築士事務所

建築施工者 ホーム株式会社

建築概要

建設地	福山市木之庄町	用途	事務所
構造	S 造、地上 2 階建	延面積	359.34 m ²

[推薦概要]

福山市中心街からすこし離れた東西に細長い敷地に建つテナントビルである。野芝に覆われたテナントのサインの入った駐輪場の横から入り、西面ファサード全体から見ると小さく感じられるが、実際にはゆったりとした入口部分から少し暗い斜路を入れていくと南の光を受けた植栽と水路の設けられた坪庭が風の通り道をつくり、二階への階段へと続いている。1 階は歯科診療所で、西半分が待合室、二つの坪庭を挟んだ東半分が診療部門で、坪庭に面した 4 つの個室、診察室、付属室となっている。2 階は西側がエステサロン、東側がオフィスである。中央の階段を挟んだ坪庭を介して、これらを分ける 4 枚の壁板に開けられたランダムな窓により、視覚的なつながりと分離をはかっている。緑豊かな空間と美しいプロポーションをもつ、ディテールの確かな優れた作品である。3 年たった現在も外壁の仕上げはほとんど暴れることなく、庭とともにメンテナンスも行き届いている。

(松本 静夫)

優秀賞

[府中市立国府保育所]



設計者 (株)感性舎

建築施工者 株式会社道下工務店

建築概要	建設地	府中市高木町	用途	保育所
	構造規模	RC造 地上2階建	延面積	1,634.34㎡

[推薦概要]

回廊型の園舎で保育所に一体感を醸し出している点、2階部分を囲む手すり(フェンス)のデザイン・施工が審査会で高評価を得た。保育の場としての機能性だけでなく、園庭にシンボルツリーや築山を配して子どもの健やかな成長にも気を配った建築コンセプトとなっている。現地調査の日は、近所の親子連れが多数訪れて園庭で遊んでいた。地域に親しまれる施設となっていることが感じられた。審査員からは「細部にこだわりが感じられない」「遊具がオリジナルであればもっと評価できた」との意見も出た。ひろしま建築文化賞の社会的意義も考え、県内の公立保育園のモデル建築となってほしいとの期待も込めて、優秀賞に推薦する。

(西村 文)

優秀賞

[須波の家]



設計者 藤本寿徳建築設計事務所

建築施工者 大和建设株式会社

建築概要

建設地	三原市須波	用途	一戸建て住宅
構造規模	RC造、一部S造、 地上1階、地下1階建	延面積	115.58㎡

[推薦概要]

個人として、あるいは家族として家に求めるものはなんだろう。家がハウスとして物理的に堅牢で安全であること、ランニングコストが合理的であること、機能性を持ち暮らしやすいこと、住む人の社会的ステータスやエコロジーへの視点を示していること、などなどだろう。これらの基準や条件は全てそこに住む人の価値観や趣味に属するものといってよい。私はそれだけではなく、その家自体が周りの自然風土や景観と調和していることもその家がよい家かどうかを判断する重要な要素の一つでもあると思う。

この「須波の家」は瀬戸内海を見下ろす角地に建ち、その家の奥側と向かって左側は隣接する家がない。すぐに瀬戸内海の自然と景観と接続している。外観はその自然に対して無理なく調和している。それは、この家がコンクリートとガラスを使用し、特定の地域の建築様式や時代的特性を持たないことが原因の一つとなっていると思う。コンクリートの色と質感がニュートラルなものであり、余計な主張を自然と風土に対して行っていないのである。

また、波型の屋根の形が無意識のうちに瀬戸内海の海の波や自然を連想させ、この家がこのロケーションにあることの必然性を感じさせてくれる。室内には壁はほとんどなく大変開放的で、キッチン回りなども収納を含め機能的である。だが、この家の最大の個性は、連続する横長の大きな窓から見る事ができる瀬戸内の景観である。室内に居ながらにして外の瀬戸内海の景観と繋がっていることを実感できること、それが毎日の暮らしの一部として住む人の感覚に馴染んでいること、このことこそこの「須波の家」の最大の収穫ではないかと思う。

この家は単に家の中に住むことだけを目的にしている。自然や風土と一体となって暮らすことまでその射程にいられており、それは十分に実現できている。

(松田 弘)

優秀賞

[森のすみか／nest]



設計者 UID 一級建築士事務所

建築施工者 ホーム株式会社

建築概要

建設地	尾道市栗原町	用途	一戸建て住宅
構造規模	木造、地上1階、 地下1階建	延面積	81.22 m ²

[推薦概要]

尾道市内の自然豊かな山裾の山林に隣接して建設された住宅である。

この住宅の建築計画においては、次の発明がなされた。

- (1)「地表面の層」をコンクリートの「アリヅカ」、「地表面上部」を木造の「浮遊する木の巣箱」にしたいという設計者の意図に沿って、1階腰壁までをRC造とし、その上に大きな開口部をもつ木造の架構を載せる。
- (2)掘り下げた洞窟状の小さな玄関を半地下部分の奥に設け、そこから左右にユーティリティと1階ホールに分けるという構成をとることで、「アリヅカ」の感覚を実現する。
- (3)1階腰壁までのRC構造の天端レベルを、2階居室への通路や吹き抜け部分の回廊、1階キッチン卓、収納などに利用し、「巣箱」内の立体構造をすっきりさせる。
- (4)高木を玄関前の半屋内空間の吹き抜けに配置し、家の中から四季の感じられる住宅とする。

いずれも所定の効果を十分にあげており、自然地域における優れた住宅モデルのひとつとして建築文化賞に該当すると評価された。

審査員の中からは「ホームパーティー会場としても素晴らしいのではないか」という評も聞かれた。母と娘二人という家族構成に適合させることで生まれた住宅で、普遍性はないかもしれないが、住み手にあわせて新たなライフスタイルを提案するという意味では、成功例といえる。

(松波龍一)

優秀賞

[屋根で包む家]



設計者 (株)古本建築設計

建築施工者 森信建設株式会社

建築概要

建設地	広島市中区小町	用途	一戸建て住宅
構造規模	RC造、一部S造、地上3階建	延面積	196.63 m ²

[推薦概要]

この住宅は広島市内の中心部に近い市街地に、全面道路をはさんで向かい側に高校のある敷地に建っている。都市住宅として低層のコンクリートの住宅であるが、道路に面して自家用車の駐車のためにかなりの大きさのキャンティレバーが2階部分にはりだしている。一見表現としてのキャンティレバーのように見えるが、狭い敷地に無理なく駐車スペースを確保するために敷地条件から導かれた解法は1階部分で全面道路からの引きの距離を確保することになることで、住宅としての静けさを獲得する説得力のある解答となっている。また自動車の駐車時である夜間は全面道路から住宅のプライバシーを確保することにも成功している。全体は可能なかぎり自然風を建築内に導き、その風の流れが建物の上部にまで流れるように全体は巧みな一室空間として断面計画がなされることで、都市内のエコロジカルな住宅としてデザインされている空間はのびやかな屋根につつまこまれた現代の民家のような風格を感じさせる。仕上げはコンクリートの内放しと自然木の家具という質素なものとするので、生活に一種のおちつきを獲得することにも成功している。さらに内放し仮枠も再利用が巧みになされることで建設における省資源化がこころみられており、再利用された仮枠の表面の表情がコンクリートに転写されることで、内部空間に独特の表情を得る事にもなっている。全体として都市のなかでのエコロジカルな民家の現代的な有り様が追求されており、そのひとつの解答として魅力ある現代住宅となっている。

(岡河 貢)

入選

[HIROSHIMA BUSINESS TOWER]



設計者 大成建設(株)中国支店一級建築士事務所

建築施工者 大成建設株式会社中国支店

建築概要	建設地	広島市中区八丁堀	用途	事務所、駐車場
	構造規模	RC造、一部S造、 地上21階、屋上1階建	延面積	28,422.92 m ²

[推薦概要]

この建物は地方中核都市の県庁、合同庁舎に近いビジネスセンターに立地する地方都市ではかなりの規模の賃貸事務所ビルである。敷地に対して可能なかぎり周辺に空地としての都市空間を、ビルの北側と西側を連結してL時型に提供し、ここに樹木を配して植物のある都市空間を提示することが試みられている。日本の都市には西欧の広場のような都市空間は歴史的に存在しないが、このようなビルの敷地内にある空地が周囲に開かれる事で、あらたな都市空間を創造しようとする試みは多いに評価されるべきである。ビルの低層部分を形成する駐車場の外壁に植栽をほどこすことで、新鮮な都市における緑を提供していることも評価できる。経済効率を求められる賃貸ビルという条件のなかで、緑を配した都市空間を成立させた設計者と事業者の努力は地方中核都市のビジネス街区において魅力を成立させようとする意気込みと、都市空間に対する愛情がなくてはできないことである。

(岡河 貢)

入選

[小網町の家]



設計者 SUPPOSE DESIGN OFFICE

建築施工者 野村建設株式会社

建築概要

建設地	広島市中区小網町	用途	一戸建て住宅
構造	RC造、地上2階建	延面積	121.97 m ²

[推薦概要]

都心住宅地内の不思議な住宅である。

細長い敷地にRC打ち放しの小さな2層構造の箱を4つ直列に並べ、第1と第2、第3と第4ブロックの間に隙間を設けて、1階の中心を串刺しにした通路が4つの箱を結合するという、きわめてシンプルな構成をもつ。

入り口と最奥部とあわせて4つの隙間は、一部階段室を混じえながら、それぞれ少しずつ異なる性格をもった半屋外空間となっている。

荒削りの仕上げ、禁欲的なエントランス、単純な幾何学的構成にもかかわらず、この隙間をうまく活用することで、8つの室内空間の個性化を実現した。

このような明解さは逆に、周辺市街地の中でもつべき建物の公共性、居住する家族のライフスタイルとの調和などといった要求と相容れないおそれも感じさせるが、これらについては、今後の歴史が検証していくこととなろう。

シンプルであるからこそ、歴史の変化にあわせ、さまざまなシーンの容器として機能していくことの期待される、意欲的な作品である。

(松波 龍一)